



■ ■ ■ Women's Leadership Panel ● 女性リーダーの方たちとのパネルディスカッション ●

4名のパネリストをお招きし、Ashley Hall 校と本校の生徒を交えてパネルディスカッションを行った。

■ <Kristiana Neff 眼科外科医>

角膜や眼表面の病気、白内障、屈折矯正手術の専門医。2017-2018 Best Doctors in America に選出される。

- ほとんど男性が占めていた眼科医という仕事だが、徐々に女性の割合が増え、現在では2～3割になっている。
- 人を助けることのできるこの仕事に満足している。
- 仕事でうまくいかずに落ち込むこともあるが、そんな時にメンタル面でフォローしてくれる仲間はとても大事な存在。

【アドバイス】 たくさんの人と関わること、嫌なことは嫌と言っていていいこと、また、チャンスがあればぜひ挑戦すべきであること、という3つがあげられる。



■ <Lenna Kirchner 検認裁判所判事>

チャールストン郡の検認裁判所で陪席判事を務める。娘が2人いる。

- 仕事とプライベートのバランスについては、自分で境界を設定することが大事。
- 最初は好きでないと後で好きになるということもあるので挑戦はしてみるべき。
- 女性の活躍については”ガラスの天井”が存在しているようには思う。ただし、今まさに変わろうとしているところで、私たちはこの障壁を打ち破らなければならない。
- 大切にしていることは、”Stop and listen” (時には立ち止まってよく話を聞くこと)。良い聞き手であることが必要とされる仕事でもある。よく話を聞くことでいいアイデアが浮かんでくることはよくある。

【アドバイス】 チャンスがあれば挑戦し続けること。全ての経験が後に活きるもので、何をしても無駄なことはない。また、何かに参加するときは必ず前列にいること、後列で見ていることのないよう積極的に参加するべき。

■ <Madeline Britton 野生動物保護団体慈善活動責任者>

アフリカの野生動物を保護するために活動する団体 “African Wildlife Foundation” で慈善活動担当の責任者を務める。



- 仕事とプライベートのバランスについては、自分で境界を設定すること。
- 年齢もキャリアも比較的若いため、女性差別はよく経験している。何も分からない子供のように扱われて、一から説明されることがよくある。
- 心掛けていることは、自分のすることに対して常に情熱を持つこと。情熱をもって仕事をすればうまくいくし、得られるものも多い。

【アドバイス】 自分を信じること。自分には価値がないなどとは思ってはいけないし、常に自分を信じて自信をもって行動すべき。

■ <Maura Hogan 新聞の芸術批評家>

チャールストンの主要日刊紙である The Post and Courier で芸術批評家を務める。劇、絵画、音楽などの批評を行う。娘が2人いる。

- もともと趣味であった芸術鑑賞を仕事にできて、とても満足している。
- 女性差別を感じることはある。明らかな場合もあるし、はっきりしないがよく考えれば女性差別だと分かる場合もある。また、会議で自分の意見をまともに取り扱ってくれないようなことがある。
- 仕事で大変なことは、芸術を鑑賞したときに、時には良い考えが浮かばないことがあること。批評家という仕事上、それが一番大変。

【アドバイス】 ”always be excellence”、そして”keep slogging”。常に高みを目指し、全力で辛抱強く取り組み続けるべき。挑戦をやめてはいけない。また、何をすべきか分からないときはとりあえず行動してみる。行動することがあなたを正しい方向に導いてくれる。



パネルディスカッションでは、前後の時間も含めてたくさんの質問ができ、刺激となる充実した時間となった。